

広報誌

# ほのぼののだより

～ほのぼのとした暮らし、ほっとできるひとときを～

第13号

秩父市社会福祉事業団

令和5年3月発行



～もくじ～

- ほのぼのまつり . . . . . P 2, 3
- 3年ぶりの秩父夜祭 . . . . . P 4
- 連載『今ありて』 . . . . . P 5
- 秋、冬の思い出 . . . . . P 6, 7
- フェイスブックやってます 心に残る Facebook . . . . . P 8, 9
- 連載『風に吹かれて』 . . . . . P 10
- 緊急寄稿 . . . . . P 11
- Information . . . . . P 12

表紙の写真

「東風吹かば・・・」  
「梅は百花の魁」、澄んだ  
空気に凜と咲き、ふわり  
と香り、春を告げます。  
「花も実もある」、人に例  
えるなら「身も心も」と言  
う具合でしょうか。  
天神様が愛した花です。

# ほのぼのまつり開催

令和4年9月25日



3年ぶりに『ほのぼの祭り』を開催することが出来ました。開催にあたっては、コロナ禍のおり、その開催の意義については様々な議論がなされました。探しても見つからないものを探し続けるような問いの連続です。

だからこそシンプルに、少しでも笑顔になれるように、今できることを少しでも、小さな喜びを生み出したくて。残したい文化、続けたい伝統。そんな思いを込めての開催です。



中庭で太鼓を演奏し、花火をあげて・・・  
このアングルも新鮮です。  
ステージを組んで無観客で録画撮影・・・  
幾つかの写真は、数年前の『ほのぼの祭り』、  
この賑わいをいつの日か・・・。





ほのぼの劇団による『水戸黄門』の演劇  
 見てくださいこの表情、この躍動感！！  
 密にならないように、黄門さまもへとへと  
 になりながら、全部で4公演。  
 町の平和が守られ、兄妹が感動の再会を果  
 たし一件落着。黄門さまの笑い声ととも  
 に、利用者の皆さんも拍手喝采でした。

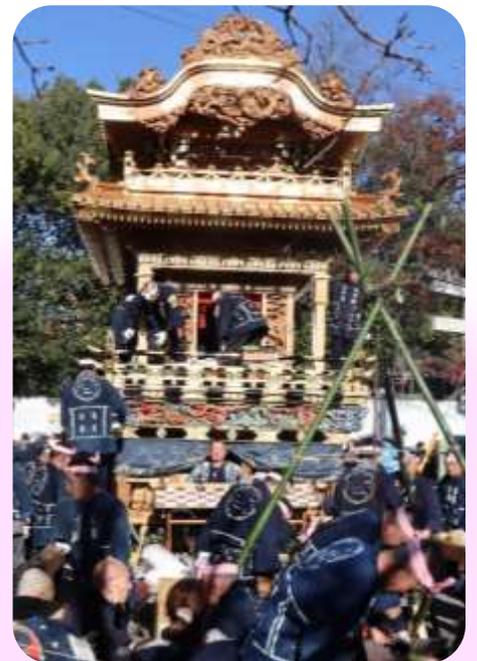


今、できること。今、やらなければならないこと。そして、  
 今、やりたいこと。試行錯誤の連続です。  
 お祭りは人の心を一つにします。無事、終わってよかった。  
 やってよかった。そんな思いでいっぱいでした。  
 さあ、令和5年の「ほのぼの祭り」が動き出します。

# 秩父夜祭

秩父夜祭が、3年ぶりに開催されました。

「今年は、夜祭やるんだってねえ〜」、あちこちからそんな声が聞こえました。毎年、秩父神社にお参りして山車を見るのが恒例でした。今年は、施設で太鼓を叩いて、ビデオを見て過ごしました。左の写真は、職員が撮った今年の下郷笠鉦です。みんなで太鼓を聴きながら写真を見て、「来年は、いけべえ〜」と……。楽しみですね。



40数年、秩父夜祭に携わり、自分のことを「お祭りバカ」と言っていたYさん。365日お祭りのことを考えていると語ってくれました。いつも、静かに笑いながら傍にいてくれて、優しく、誰からも慕われていました。3年ぶりに開催された秩父夜祭の六日町が過ぎた数日後、ベッドの上で屋台囃子を聴くYさんの頬を一筋の涙が伝いました。そして、そっと目を閉じ、人を愛し祭りを愛した山ちゃんは、78年の人生を仕舞われました。みんなに優しくしてくれて、ありがとうございました。 合掌



寺尾デイでは、師走が近づき、いてもたってもいられず、祭り会館に出かけました。立派な山車と綺麗な花火の映像に感動。

「すごいねえ」、「いいね!かわいいね!」と祭りの雰囲気を楽しみました。

## 『忘れられない出会い』

居宅介護支援事業所介護支援専門員 西田文恵

その出会いは11年程前のことです。包括支援センターより新規支援依頼があり支援をすることになったのがきっかけでした。本人の状況を聞くと不安がよぎりました。

Aさんは、70歳代の男性、独居、運送業をしていたが遠方に家族を残しひとり秩父に住むようになったため家族と疎遠で関係はよくない。頼れる家族は誰もいない。白内障の手術をしたいが多数疾患があり近医での手術はできない。市外の病院に入院する必要があるので、その調整もお願いしたい。

私にできるだろうか？

家族がいない方の支援は、時には、ケアマネージャーが家族に代わって動くこともあります。Aさんはヘビースモーカー。煙草を買いに行ってくれる人がいない。私がコンビニまで煙草を買いに行ったこともありました。携帯電話が壊れてしまって一緒に携帯電話ショップへ行って修理をしたこともありました。

そして、白内障の手術について考えなければなりません。包括支援センターとも連携して、Aさんと一緒に眼科を受診しました。手術をするには家族の同意を得る必要があるとの話があり、遠方の家族へ同意書を送りましたが、なかなか返信がありません。Aさんに「ご家族の協力は難しいかもしれない」と伝えようと、「もう来るな。」と怒られてしまいました。通っていたデイサービス事業所から、Aさんが白内障の手術の心配をしていると度々連絡が入りました。何度も訪問を繰り返し、ゆっくりと話をするうちお互いに、「ごめんね。」と話し和解することが出来ました。そうこうするうち、なんとか家族から同意書をいただくことが出来、手術が決まりました。病院への入院日にAさんから電話があり、「無事に着いたよ。」と嬉しそうな声での報告でした。そして、無事手術は成功し、「あんたのお陰だよ。」と言って頂きました。

どうにもならないような課題を一緒に乗り越えて、Aさんと私の絆は深まったように思います。「Aさんは私のお父さんみたい。」「親子のようだね。」と言って笑いあいました。関わりを持つ中で、感謝をしていただいたり、必要とされること、そして、何よりも心が通い合うことは、一番の喜びであり仕事のやりがいを感じられる時です。

翌年、Aさんは、インフルエンザに罹ったことにより身体機能が低下し、特養への入所を目指すことになりました。そして、私も人事異動で担当を後任に引き継ぐことになりました。特養で暮らすこととなったAさんは、いつも私のことを気にかけてくれました。顔を合わせるといつも優しい言葉をかけてくれました。数年後、「Aさんの体調が良くないので静養室で過ごしている。」と特養の職員から報告があり面会に何うと、「来てくれてありがとう。」と精一杯の笑顔を見せてくれました。私も「元気になってまた二人で出かけましょうね。」と伝えました。それが最後の会話になってしまった。数日後、Aさんは旅立ちました。私は心の中で「Aさんに出会えて支援ができてとても幸せでしたよ。ありがとうございます。天国で煙草を楽しんでいますか。」と呟きました。

私は今年の4月から8年ぶりに居宅のケアマネージャーとして仕事をしています。生活を支えることが役割のケアマネージャーは、責任の重い仕事です。いつも、あの時のように、私にできるのだろうかと不安ばかりです。でもAさんが「大丈夫。あんたならできるよ。」と背中を押してくれているように感じる時があります。「あの時のように利用者や家族としっかりと向き合っていこう。一人でも多くの利用者の笑顔が見られるように、幸せだったと思ってもらえるように。」そう心に誓って奔走しています。

【Heart. 25】

# 木漏れ日の中で、そっと



黄色、朱色、橙色、秋の彩りは、  
心を映す鏡のようです。  
優しさと哀愁と、ぬくもりと・・・



## 食欲に芸術、happy ハロウィン ♡ 盛りだくさんの秋





## Merry Christmas



甘いケーキとプレゼント、思わずにっこり



手作りケーキ&  
手作りシチュー  
ぽかぽか気分です。  
サンタさん、食べていきませんか？



力を合わせて、お正月の支度をしました。  
良い年が迎えられるように。



新連載

# フェイスブックやっています

～心に残る Facebook～

いつもどこかで、誰かが、何かを……。誰かと一緒に、泣いたり笑ったり……。あ～、いまよかったなあ～、とつても、うれしかったなあ～、おいしかったなあ～。夏が終わって、秋が来て、冬が過ぎたら、春になりました。大切なひと時、素敵な一コマ、わかって欲しいこの気持ち。Facebook でお届けしています。数年にわたる思い出の中から Facebook 傑作選をシリーズでお送りします。今回は、高篠デイ特集です。

2019年6月11日

「高篠デイサービスセンター」

帰ろうか

帰ろうよ

私たちのマイホーム高篠デイで

昨年、利用者さんと力を合わせて作ったおうち

かわいらしい住人が気に入ったようです

雛たちも数匹見えます

ようこそ！高篠デイへ

宿代がわりに

歌声をいつか聞かせておくれ





2019年9月2日

【高篠デイサービスセンター】

クジャクは青色  
そんなこと誰がきめたのかしら  
ひとりひとりみんな違う色  
ひとりひとり自分だけのカラフルな色  
そうです  
どうせなら  
地味より華やかに  
タカシノデイ金色クジャク  
金賞受賞  
みんなで勝ちとった金メダル



2019年9月25日

【高篠デイサービスセンター】

うどん どんどん  
案山子うどん  
うどん どんどん  
クジャクうどん  
クジャク案山子金賞祝勝会  
もらった賞品のうどんは  
みんなで山分け  
うどんの中に  
クジャクがいるよ  
さあ、来年の案山子は何作ろう



高篠デイは、工作をしても料理を作っても手が込んでいます。いつも凄い完成度です。職人がいっぱい、それは、もはや伝統芸…。ところで、みなさん、高篠デイに行ったことありますか？玄関を一步入ると、みんなでこしらえた作品が驚くほど綺麗に飾り付けがされていて、何だかワクワクします。ぜひ、一度覗いてみてください。その雰囲気は、ほんわか、なかよし家族のようです。次回傑作選もご期待ください。

## 連載 『風に吹かれて』 ～心のかたちを知りたくて～

・・・もし心に形があるならば、もし心に色があるならば、たしかな思いを丁寧に紡いで綴ります。

### 『弱虫だった自分へ』

吉祥苑管理者 中島 高史

「早く死なせて！」

22歳のとき、バブル崩壊の余波を受けて…だけでなく、生来のものぐさが祟り、就職もできずにいた折に、人に勧められてとある老人ホームを見学中に、耳に飛び込んできた叫び声が、冒頭の言葉でした。あの声は、今でもくっきりと脳裏に焼き付いています。

(この業界にはご縁はないなァ)

親切にご案内して頂いた施設の方に申し訳ないと思いつつ、介護という選択肢は僕の中で完全に消去されました。その後、いくつかの業種を転々としたのち、印刷業に従事しました。

身体を使う労働の尊さを感じつつ、老人ホームで感じた恐怖も、どこか懐かしい思い出となって記憶の底に沈んでいきました。

介護に現実として向き合うことになったのは、何の変哲もないある夜のことでした。

当時、全盲だった祖母と同居していた僕は、いつものように友人と長電話に興じておりました。祖母は全盲とは言え自分の事は自分で行えており、むしろ僕の食事の面倒までみてもらっている、体のいい居候のようなものでした。

電話に興じていた自分が、手を叩くような音に気付いたのは電話の終わり際でした。しばらく聞こえてはいたものの、

(大した用事でもないんだろな)

と高をくくっていました。

それが、脳梗塞を起こしてトイレ前で倒れ、必死に助けを求めている合図だとは、その時は知る由もありませんでした。

祖母はその後、脳梗塞の後遺症で軽度の片麻痺は残りながらも、病院から特養へ移ることができ、ひ孫の声まで聞かせてあげることができました。

祖母が回復する途上で、介護の果たす役割の大きさを目の当たりにし、一度は消し去った介護という仕事の選択肢が自分の中で大きくなっていくのも、時間を要しませんでした。

「早く死なせて！」という叫び。

祖母が必死に手を叩く音。

僕の脳裏にはそれらが今でも焼き付いています。

それと同時に、

(どうしてもっと早く)

(できなかったんだ)

(気づけなかったんだ)

(やれなかったんだ)

(勇気を持てなかったんだ)

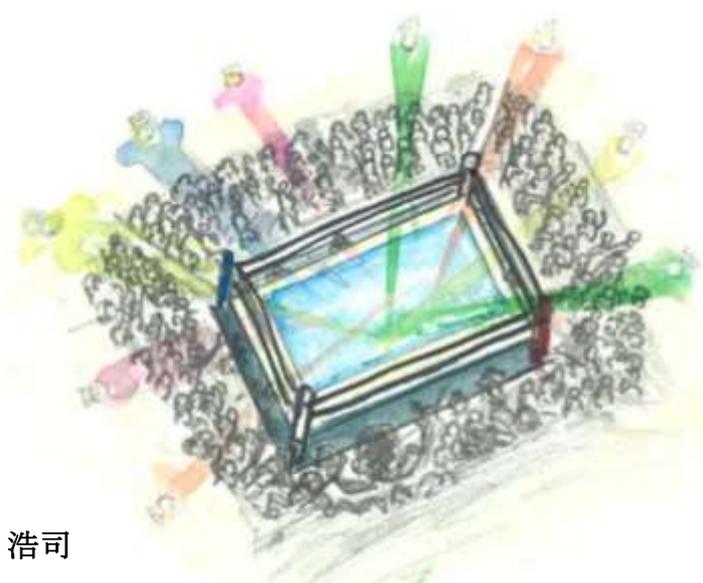
痛烈な悔恨の念がいつまでも頭の中に残響しています。

その残響を頭の中にこだませながら、僕は今日も介護の道を進んでいます。

後戻りはしたくない、そう思いながら。

【Heart. 26】

# 緊急寄稿

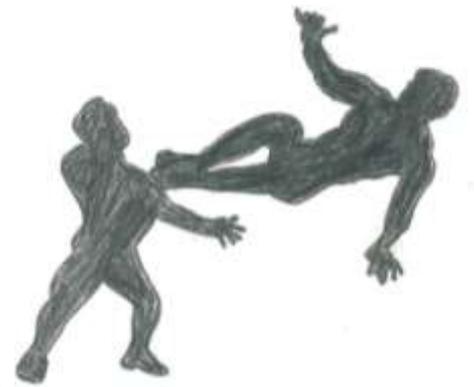


## 『グッバイ闘魂』

偕楽苑職員 高橋 浩司

元気があれば何でもできると言っていたあのヒトが永遠の戦いに幕を降ろした日  
確実にひとつの時代の終わりを告げた  
それは、悲しむべきことではなく  
新しい時代に其の一足を踏み出したということ  
そのヒトは、予定調和や固定概念を嫌っていた  
人がやらないこと、やれないことへの挑戦を人生をかけて表現していた  
だからであろうか、この寂しささえも覆されるのではないか  
そんな気がする  
自分よりもはるかに体の大きい外国人を前にして  
刺激的な発言で、相手をあおり、人々の期待をもあおる  
道場での血の滲む練習で身についた確かな技術で試合を作る  
その美学は、相手の力を存分に引き出し、全てを受けきる  
そして、待ってましたと必殺技でフィニッシュ・・・とはいかない  
ここで裏切るのが闘魂スタイル  
お前らが思っている通りに行かせてたまるか  
ハッピーエンドでも、バッドエンドでも、おもしろけりゃなんでもいい  
人々はそのヒトの一挙手一投足に歓喜し、時に落胆もする  
一寸先はハプニングだという生粋のエンターテイナーなのである  
ダーと拳一つ振り上げるだけで、何万人の心を驚掴みにしてしまうカリスマ性  
一方、自分とは言えば、常識から逸脱することを恐れ、  
いつも右に倣えと無難な道を行く  
闘魂とは何なのだろうか？  
自分がやりたいことをやるカッコよさ  
誰がどうじゃなく、自分がやりたいことをやる  
これが私の憧れる闘魂なのだ  
誰かを元気にしたい  
だから、私はわたしの道へ一歩を踏みだそうと思う

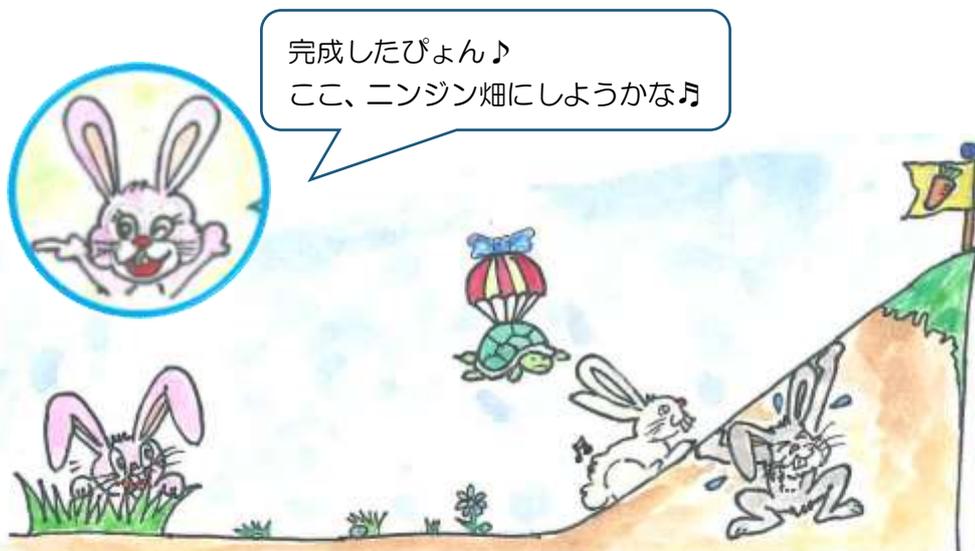
【Heart. 27】



### 浄化槽工事完了のお知らせ

ほのぼのマイタウンでは、令和4年6月から浄化槽の入替工事を行ってまいりましたが、令和5年1月末をもちまして全ての工事が終わりました。

長い期間ご不便をおかけしましたが、皆様のご協力もあり工事は事故もなく予定通り完了することができました。今後とも利用者様に快適な生活を送っていただけるよう努力していききたいと思います。



### 編集雑感

令和5年は卯年。漢字の表記は十二支の場合は卯、動物は兎が一般的です。「卯」の字は、門が開く象を表しているとのこと。卯年は、芽を出した植物が成長していき、茎や葉が大きくなる時期と言われています。また、うさぎは跳びはねることから、飛躍する年とも言われており、新しいことも始めるのには最適と言われています。そして今年、「癸卯（みずのとう）」の年です。「癸」は冬の終わり、「卯」は春の兆しを意味しています。何だか新しいことが始まりそうな気がします。ただ、激動と言うような変化ではなく、無理なく着実にゆったりと時が流れて欲しいと思っています。

先日、谷川俊太郎さんの「幸せについて」と言う本を手に入れました。「いま、ここに在ること」が、谷川さんの幸せの基本形と言う言葉が印象的でした。そして、「さようなら」と言う詩も春になると思い出す詩です。

穏やかな時代が始まることを願いながら、ひとつ詩をご紹介します。

「春に」 谷川俊太郎

この気持ちはなんだろう／目に見えないエネルギーの流れが／大地からあしのうらを伝わって  
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ／声にならないさけびとなってこみあげる／この気持ちはなんだろう  
枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく／よろこびだ しかしかなしみでもある  
いらだちだ しかもやすらぎがある／あこがれだ そしていかりがかくれている  
心のダムにせきとめられ／よどみ渦まきせめぎあい／いまあふれようとする／この気持ちはなんだろう  
あの空の青に手をひたしたい／まだ会ったことのないすべての人と／会ってみたい話してみたい  
あしたとあさってが一度にくるといい／ぼくはもどかしい  
地平線のかなたへと歩きつづけたい／そのくせこの草の上でじっとしていたい  
大声でだれかを呼びたい／そのくせ一人で黙っていたい／この気持ちはなんだろう

(ぴょん吉&寅之助)

秩父市社会福祉事業団「Facebook」更新中！ <https://www.facebook.com/chichibu.honobonometrytown>

秩父市社会福祉事業団 HP アドレス

<http://www.chichibu.ne.jp/~honobono/>



秩父市社会福祉事業団

検索

